

序 文

本書は、わたしが公表してきた比較的最近の諸論文をこれまで早川勝教授が翻訳してきたものを収録した論文集である。これらの論文は、法と経済の関係における基本的な問題を扱うもので、とくに、グローバル化の時代において、欧州とドイツのレベルにおいて生じた問題について論じている。域内市場および競争によって規制されまた事実上形成された欧州の経済制度に関連する限り、これらの基本問題は欧州の憲法問題である。理念の変遷や私法理論に関する論文では、自由に組織された経済秩序と分権的に組織された経済秩序に共通する原則をどのように認識するかという問題を検討している。ここでは、経済的な前提、その機能と効果の下における私法制度、つまり契約の自由、権利および競争について理論的な説明を試みている。これらの関係においては、経済理論については、その時々においてこれらの理論が「良いのか悪いのか」ということはまったく問題にならないのであって、むしろ、経済理論が法秩序と経済秩序の相互依存に対する理解に役立つのかどうかについて検討しなければならないのである。

わたしは、この場を借りて、親愛なる同僚で友人でもある早川勝氏がわたしの諸論文を翻訳する労をとってくれたことに対して心よりお礼を申し上げる。とくに、内容の理解に努め、またその質を落とさないようにするために払われた労苦に対して感謝申し上げたい。

2011年5月 ハンブルグ

エルンスト・ヨアヒム・メストメッカー